

公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団

1. 団体の概要(令和7年4月1日現在)

代表者(職・名)	理事長 堀場厚				
所在地	京都市左京区下鴨半木町1番地の26				
電話番号	075-711-2244		設立年月日	昭和48年2月5日	
ホームページアドレス	https://www.kyoto-ongeibun.jp/				
基本財産(又は資本金)(千円)	103,000	市出資・出捐金(千円)	55,000	市出資割合(%)	53.4
所管部局 (局・室・電話番号)	文化市民局文化芸術都市推進室文化芸術企画課 075-222-3119				
事業目的	京都市世界文化自由都市宣言の理念に基づき、音楽、演劇、舞踊その他の芸術及び芸能を振興し、国内外へ発信することにより、京都が優れた文化を創造し世界文化交流の中心であり続けることに寄与するとともに、市民が生きがいのある文化的な生活を送ることができる社会づくりに貢献すること。				
業務内容	(1) 芸術及び芸能の振興並びに伝統芸能の継承及び発展に資する事業 (2) 京都の文化芸術の国内外への発信と交流の促進に資する事業 (3) 京都市交響楽団による芸術の振興及び発信に資する事業 (4) 文化芸術を通して地域社会の活性化や健全な発展に寄与する事業 (5) 文化芸術の振興拠点として、創造的な活動が不断に行われるための施設の管理運営 (6) その他法人の目的を達成するために必要な事業				

(参考①) 役職員の年齢構成

(単位:人)

	役員		職員		平均年齢 (歳)
	常勤役員	非常勤役員	常勤職員※	非常勤職員	
10～20歳代	0	0	26	0	45
30歳代	0	0	36	0	
40歳代	0	1	45	0	
50歳代	0	8	66	0	
60歳代～	2	17	15	0	
合計	2	26	188	0	

※うち京都市からの派遣職員は6人

(参考②) 積立金、不動産の概要

基金、積立金等(退職引当金は除く)		
主な基金、積立金名	想定される主な用途	期末残高
京響70周年記念事業準備資金	京響70周年記念事業	103百万円
ロームシアター京都記念事業準備資金	ロームシアター京都記念事業	40百万円
土地、建築物の保有状況		
主な不動産の種類、場所	想定される主な用途	敷地・延床面積
—	—	— m ²
—	—	— m ²

(参考③)京都市の政策と団体活動の関連性

関連する本市の行政計画等とその方向性	
計画名	京都文化芸術都市創生計画(第二期) https://www.city.kyoto.lg.jp/bunshi/page/0000004509.html
概要	京都の豊かな文化・芸術を活かした持続可能で創造的なまちづくりを目指し、具体的指針を定めたもの。
計画における記載	方向性1:暮らしの文化や芸術に対する豊かな感受性をもった人々を育む ■子どもが文化芸術に触れる機会を創出し、感性を磨くP16 13 「ほんもの」の魅力が伝わる場所での公演に触れる機会の創出 コンサートホール、劇場等の場所での子どもたちへの鑑賞機会の提供を推進 21 京都市ジュニアオーケストラ・京都市少年合唱団の運営や地域文化会館における教育プログラムの実施等、 子どもの音楽文化の振興・普及を図る取組の推進 ■市民が文化芸術に親しむP18 34 京都市音楽芸術文化振興財団等の文化芸術団体と連携した鑑賞・参加型事業の推進 35 「文化芸術都市・京都が世界に誇るオーケストラとしてより市民に愛される京響」を目指す取組の推進 方向性3:京都の文化芸術資源を活用し、文化を基軸にあらゆる政策分野との融合により、新たな価値を創造する ■文化施設を充実するP29 110 ロームシアター京都を拠点とした劇場文化の創造・発信 ◎本市の文化芸術を支える主な拠点等の現状と今後の方向性P30,P31 ロームシアター京都、京都コンサートホール、京都市交響楽団、地域文化会館 について、それぞれ記載あり
上記計画に関連する団体の事業や取組	
	方向性1:暮らしの文化や芸術に対する豊かな感受性をもった人々を育む 方向性3:京都の文化芸術資源を活用し、文化を基軸にあらゆる政策分野との融合により、新たな価値を創造する 13 「ほんもの」の魅力が伝わる場所での公演に触れる機会の創出 34 京都市音楽芸術文化振興財団等の文化芸術団体と連携した鑑賞・参加型事業の推進 35 「文化芸術都市・京都が世界に誇るオーケストラとしてより市民に愛される京響」を目指す取組の推進 110 ロームシアター京都を拠点とした劇場文化の創造・発信 <取組> ○京都コンサートホール 聴いて！歌って！楽しもう！きょうと・キッズ・フェスタ、幼児のためのポジティブオルガン体験講座、KCHのクラシック音楽のススメ ○京都市文化会館 京響 ZERO歳からのみんなのコンサート(全館) 等 ○ロームシアター京都 京都市交響楽団 オーケストラ・ディスカバリー 高校生のためのオペラ鑑賞教室 等 21 京都市ジュニアオーケストラ・京都市少年合唱団の運営や地域文化会館における教育プログラムの実施等、 子どもの音楽文化の振興・普及を図る取組の推進 <取組> ○京都市ジュニアオーケストラ 京都市ジュニアオーケストラ 創立20周年記念コンサート(京都コンサートホール)、 京都市ジュニアオーケストラ ミュージック・サマー・コンサート(右京) 等 ○京都市文化会館 シアターデビュー促進プログラム(ロームシアター京都連携(全館))、 子ども向けワークショップ(東部)、夏休みこどもバックステージツアー(呉竹)、 夏休みウエスティタンけんツアー(西文)、伝統芸能「狂言鑑賞会」(西文)、 舞台・バックステージ探検ツアー(右京)、小学生のための音楽体験会(右京) 等 ○ロームシアター京都 プレイ！シアターin Summer 等

2. 財務面の概要

(単位:千円)

主要財務数値	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度
	予算	実績	予算	実績	予算	実績(※)	予算
経常収益	2,967,310	2,966,918	3,042,224	3,047,490	3,052,087		3,242,920
経常費用	2,952,753	2,894,909	3,000,587	2,979,991	3,042,179		3,292,459
当期経常増減額	14,557	72,008	41,637	67,499	9,908		△ 49,539
当期正味財産増減額	14,557	71,688	41,637	67,179	9,908		△ 49,539
資産合計	-	1,639,419	-	1,750,700	-		-
負債合計	-	812,186	-	856,287	-		-
正味財産合計	-	827,233	-	894,413	-		-
累積損益額	-	724,233	-	791,413	-		-

(参考④) 財務指標

(単位:%)

			令和4年度 決算	令和5年度 決算	令和6年度 決算(※)	
自立性	市補助金割合	市補助金収入 経常収益	28.6	28.1		小さいほど 自立性が高い
安定性	自己資金率	正味財産合計 資産合計	50.5	51.1		大きいほど 安定性が高い
収益性	売上高経常利益率	経常収益－経常費用 経常収益	2.4	2.2		大きいほど 収益性が高い
	総資産経常利益率	経常収益－経常費用 資産合計	4.4	3.9		大きいほど 収益性が高い

(参考⑤) 京都市からの補助金等

(単位:千円)

		令和4年度 決算	令和5年度 決算	令和6年度 決算(※)	令和7年度 予算
補助金	事業補助	849,956	854,897		924,000
	小計	849,956	854,897	0	924,000
委託料	京都コンサートホール管理運営〔指定管理(非公募、利用料金制)〕	188,440	181,165		156,358
	京都会館管理運営〔指定管理(公募、利用料金制)〕	370,371	357,343		369,143
	文化会館管理運営〔指定管理(公募、利用料金制)〕	260,372	241,156		234,464
	自主、共催事業	6,717	8,579		6,600
	事業委託	4,950	5,378		5,943
	小計	830,850	793,621	0	772,508
貸付金	—	0	0	0	0
	小計	0	0	0	0
その他	—	0	0	0	0
	小計	0	0	0	0

3. 目標及び実績

(1) 業務面

目標 「各施設の利用促進」	
令和6年度の目標	施設ごとに実施している割引制度の周知に努め、更なる利用促進を行い、引き続き平成30年度の利用率を目標に利用料金収入の回復に努める。 またコロナ禍を経て、長期間利用の無い団体や、他施設を利用している団体についてはDMの送付及び各種助成金制度の広報・宣伝するなど、利用率の向上に向けて取り組む。 また、財団においても自主事業として施設商用撮影貸出（ロケーションボックス）等を行い、施設の稼働率向上や増収に努める。
令和6年度 の取組結果 (※)	
令和7年度の目標	施設ごとに実施している割引制度の周知に努め、更なる利用促進を行い、引き続き平成30年度の利用率を目標に利用料金収入の回復に努める。 京都コンサートホール（開館30周年）やロームシアター京都（リニューアルオープン10周年）の周年記念を契機に広報・宣伝を強化し、更なる利用率の向上に取り組む。 また、財団においても自主事業として施設商用撮影貸出（ロケーションボックス）等を行い、施設の稼働率向上や増収に努める。

指標	施設商用撮影貸出（ロケーションボックス）の利用促進						(単位：件)
目標と実績	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度
	目標	実績	目標	実績	目標	実績 (※)	目標
			3	0	3		3

(2) 財務面

目標 「サポーター・パートナー会員収入」	
令和6年度の目標	前年度に引き続き新規会員の獲得や一度退会した会員に対して支援再開をご案内するとともに、現会員との関係性向上にも注力し、支援額の維持を必達とした上で、目標額700万円の達成を目指す。 また、令和6年度中に支援者にとって意義や魅力が理解しやすく、一層共感を得られる制度となるよう、広報の方向性などの見直しを図り改定を予定している。（令和7年度から実施） 法人：サポーター 34口 3,400千円 〃：スペシャルサポーター 10口 1,000千円 個人：パートナー 50口 1,000千円 〃：スペシャルパートナー 80口 1,600千円 計7,000千円
令和6年度 の取組結果 (※)	

令和7年度の目標	支援者にとって意義や魅力が理解しやすく、一層共感を得られる制度となるようこれまでの税制上の優遇措置のあるコースの他に、税制上の優遇措置はないが自主事業のチケット割引等の特典のあるコース、29歳以下の方限定のコースも新設し、今年度に引き続き新規会員の獲得や一度退会した会員への支援再開を促すとともに、現会員との関係性向上にも注力し、目標額700万円の達成を目指す。 観賞で応援コース／寄付で応援コース／U29コース 法人：サポーター 34口 3,400千円 〃：スペシャルサポーター 10口 1,000千円 個人：パートナー 50口 1,000千円 〃：スペシャルパートナー 80口 1,600千円 計7,000千円
----------	---

指標	施設利用料金収入						(単位：千円)
目標と実績	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度
	目標	実績	目標	実績	目標	実績(※)	目標
	756,392	752,983	773,709	747,118	774,969		803,609

指標	サポーター・パートナー会員収入(単年度)の目標値						(単位：千円)
目標と実績	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度
	目標	実績	目標	実績	目標	実績(※)	目標
	7,000	4,830	7,000	4,560	7,000		7,000

(3) 組織面

目標	「経営基盤を強化するための適正かつ弾力的な人員配置」
令和6年度の目標	令和7年度以降に京都コンサートホール及び京都市北文化会館の開館30周年、ロームシアター京都のリニューアルオープン10周年、京都市交響楽団の70周年を控えていることから、記念事業等の実施を確実にできる体制を確立するとともに、引き続き次期指定管理者に選定されるよう、プロパー職員の登用試験及び職員研修を実施し、中長期的に財団を支える職員の人材育成に努める。
令和6年度 の取組結果 (※)	
令和7年度の目標	令和7年度から8年度にかけて京都コンサートホール及び京都市北文化会館の開館30周年、ロームシアター京都のリニューアルオープン10周年、京都市交響楽団の70周年を迎えることから、記念事業等の実施を確実にできる体制を確立する。 また、引き続き次期指定管理者に選定されるよう、プロパー職員の登用試験及び職員研修を実施し、中長期的に財団を支える職員の人材育成に努める。

指標	適正かつ弾力的な人員構成を測るための具体的なスケジュール						
目標と実績	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度
	目標	実績	目標	実績	目標	実績 (※)	目標
	・適正かつ弾力的な人員構成の継続的な検討 ・中長期的に財団を支える職員のプロパー登用	・プロパー登用試験の実施（プロパー登用者5人）	・適正かつ弾力的な人員構成の継続的な検討 ・中長期的に財団を支える職員のプロパー登用	・プロパー登用試験の実施（プロパー登用者3人）	・適正かつ弾力的な人員構成の継続的な検討 ・中長期的に財団を支える職員のプロパー登用		・適正かつ弾力的な人員構成の継続的な検討 ・中長期的に財団を支える職員のプロパー登用

4. 令和6年度の経営評価（令和5年度の経営状況に対する評価）

(1) 所管局による評価

財務面	新型コロナウイルス感染症による施設利用料金収入の減収及び利用率の低下については影響を受けていない平成30年度の水準までは回復していないものの、令和4年度に引き続き回復の傾向にある。 コロナ禍以降、サポーター・パートナー新規会員の獲得に苦戦する状況が続いている中、主催公演でのパンフレット配布等周知のための取組の継続による新規申込の獲得や、ファンドレイジングによる外部資金の獲得強化に努めていることが評価できる。引き続き協賛金や各種補助金・助成金の確保、ファンドレイジングの推進など収入源の多様化を図り、経営基盤の更なる強化に努められたい。 令和5年度は、指定管理施設（7館）のうちロームシアター京都を除く6施設の5期目の指定管理期間の初年度であり、ロームシアター京都は8年間の指定管理者として後期期間の初年度を迎える年であり、文化庁京都移転や京都市立芸術大学の移転等を契機とした大きな節目となる1年であった。引き続き、「中期経営計画2025」に基づき策定した指定管理者申請書の提案取組を推進し、更に効果的・効率的・安定的な財団運営を図ることが求められる。
事業面	指定管理者として、施設管理運営を行うとともに各施設において特色のある事業を展開した。文化庁京都移転や京都市立芸術大学の移転を契機に、様々な国や年齢層の方々に広くクラシック音楽・文化芸術の魅力を発信し、地域の文化芸術の支援や情報発信を行い地域活性化の推進に取り組んだほか、音楽芸術の人材育成のための支援、サービス向上に向けた施設利用者ニーズの把握や施設整備の維持管理などを引き続き実施していることが評価できる。 文化庁京都移転や京都芸大移転を契機とし、京都の文化芸術の創造・発信の拠点としての役割を果たすべく、本市と連携のもと、更に魅力的な事業の展開に努められたい。

(2) 外郭団体総合調整会議による評価

文化会館等の施設運営を行うとともに、京都市交響楽団による演奏会をはじめ、音楽芸術の魅力発信等に取り組んでおり、その事業内容を評価できる。

施設運営を核としつつ、音楽芸術文化に関する市民活動や若手演奏家の支援、国内外の人材交流の促進など、外郭団体としての専門性や機動性等を十分に発揮した取組を一層推進いただきたい。

とりわけ、令和7～8年度にかけて、京都コンサートホール、ロームシアター京都や京都市交響楽団の周年記念を迎えることを契機とした、市民にとってより魅力ある取組の展開を期待する。

また、プロパー職員の雇用・育成など、組織力の向上についても、引き続き努めていただきたい。